

# PLUS 2014

CSR報告書



# Contents

- 1 編集方針
- 2 PLUSのココロ
- 3 トップメッセージ
- 4 プラスグループのあゆみ
- 5 プラスグループのご案内
- 7 特集
  - ・ 自然と地域との共生のために
  - ・ ベトナムにおける長年のご支援に感謝をこめて
  - ・ 東日本大震災への復興支援
- 10 CSR マネジメント
- 12 環境のためにできること
- 20 お客様のためにできること
- 30 地域社会のためにできること
- 40 お取引先のためにできること
- 50 働く仲間のためにできること

## 編集方針

本報告書は、さまざまなステークホルダーの皆様との大切なコミュニケーションツールとして、企業理念に基づく、プラスグループの社会的責任（Corporate Social Responsibility : CSR）に対する姿勢や環境および社会に対する取組みを分かりやすくお伝えすることを目的としています。

### 対象期間

2014年度（2014年1月1日～2014年12月31日）  
※一部、この期間の前後の活動についても含まれています。

### 対象範囲

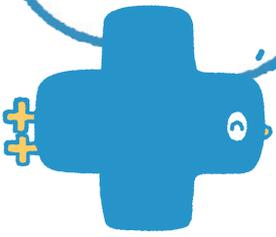
プラス株式会社を中心に、プラスグループ（連結子会社および関連会社）を報告対象としています

### 参考ガイドライン

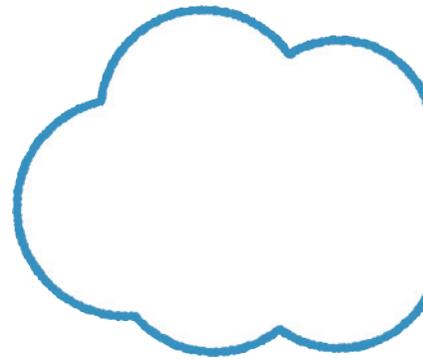
- ・ 国際標準化機構「社会的責任に関する手引（ISO26000 : 2010）」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン 2012年版」
- ・ GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版（G3.1）」

### 次回発行予定

2016年4月



# PLUSのココロ



## 私たちの理念

Our Philosophy

# 新しい価値で、新しい満足を。

### 新しい価値って何だろう？

私たちプラスグループは、社会と共に生きる企業です。お客様の求めるものが常に変化する現代にあっては、普遍的な価値を大切にしながらも、新たな価値を見出していく必要があります。私たちの手で新たな市場を創り出すチャレンジ精神。世の中になく価値に気づき、他人とは異なる視点を持ち、どんな些細な身の回りのものにも目を向けることのできる鋭い感性。そして日々、発明・発見を継続させていく力。この3つの力で、新しい価値を創造していきます。

### 新しい満足って何だろう？

私たちがお客様にご提供するもの。それは、単に商品やサービスだけでなく、お客様に満足をもたらすことです。商品やサービスを通じて、今まで経験したことのない満ち足りた気持ちになっていただく。お客様の満足は、私たちの満足でもあり、社会の満足にも通じるのです。『新しい価値で、新しい満足を。』これを私たちの最大の喜びとして、社会に貢献していくことがプラスグループの使命なのです。

## 私たちのビジョン

Our Vision

プラスグループは世界中の人々に  
快適で楽しくスマートな  
仕事空間と生活文化を実現する  
商品・サービスを提供し  
社会の発展に寄与します。

オフィスやパブリック、学校・病院・福祉といった仕事空間を、快適で楽しくスマートに「ワーク」から「プレイ」する空間に変える。作業から創造する空間に変えていく。人が働く空間に新しい価値を生み出したいと、私たちは考えます。また、子供から大人までみんなの日常生活に商品やサービスが溶け込み、より快適に過ごせる習慣となるような、さらには独自の文化にまで発展するようなモノとコトづくりを目指します。

## 私たちの価値観

Our Values

### ユニークネスの追求

- ・お客様重視
- ・生活者視点
- ・自由と個の尊重
- ・デザインへのこだわり
- ・挑戦と改革

企業理念の達成のためには、一人ひとりが同じ志を持つ必要があります。私たちにとって大切なことは、お客様の満足。そのためには、何よりも「お客様重視」であること。常に「生活者の視点」に立って物事を考えていきます。私たちの財産は、人です。「自由と個を尊重」し、みな「デザインへのこだわり」を持つことで、プラスグループ全体の豊かな創造力へとつながるのです。新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識を持って『ユニークネス』を追求していきます。

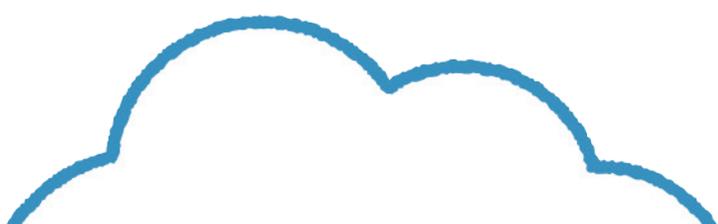
## 私たちの行動指針

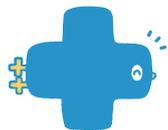
Our Action

- ・今までにない、他者とは違う、他のやり方でチャレンジする。
- ・お客様のために、あらゆる努力を惜しまない。
- ・社会、家庭の中で暮らす一人として自覚し仕事に取り組む。
- ・仲間を大切にしながら、自由な発想で取り組み、個性を発揮する。
- ・常に、美しいもの、心地よいものを追求し提供し続ける。
- ・情熱を持って挑戦し、仕組みや社会を変えてゆく。

- もっと新しく。
- もっとひたむきに。
- もっと正しく。
- もっと自分らしく。
- もっとクリエイティブに。
- もっと生まれ変わる。

もっとPLUS人になる。





## トップメッセージ

プラスグループにおけるCSRとは、  
企業理念を具現化することです。



### はじめに

プラスグループは創業からこれまで、文具・事務用品やオフィス家具をはじめ、流通や物流の業界において「PLUS」というブランドを確立し、着々と発展を続けてまいりました。1984年以降は、パーソナル文具セット「チームデミ」や多機能文具「ファクトリー」など、数々のヒット商品を生み、現在も修正テープ、はさみ、ファイルなどの数々の文具・事務用品、およびオフィス家具や電子光学機器の分野でユニークな商品を世に送り出すメーカーとして、さまざまな新製品の企画・開発を行っています。

1991年からは、その製品の多くを敷地面積46万㎡を超える「プラスランド」と、業界に先駆けて進出し

たベトナムや中国にある海外工場で製造。そして、自社工場を持つ本当の意味での「メーカー」となったことは、その後の新しいビジネスを創り出す重要な基盤にもなりました。また、“お客様の満足”を“独創的な方法”で実現することをめざし、業界の商慣習を覆す画期的なシステムやサービスを創出してきた結果、プラス株式会社からはいくつものグループ会社生まれ、メーカー、流通、物流の各分野に事業の場を拡げ成長してまいりました。

現在各々の事業において、「お客様にとって価値ある製品とサービスを継続的に提供していく」という目標に向かい、独自のビジネスを展開しています。



## 企業理念『新しい価値で、新しい満足を。』

現在プラスグループの連結従業員数は約 5,000 名です。そのうちの半数以上がベトナム、中国、アメリカ、ドイツなどのグループ会社で働いています。私たちが考える真のグローバル化とは、単に海外市場での売上を伸ばさせるということではなく、企業そのものが多国籍な人材で構成され、言葉や文化を超えて一つの企業理念のもとにコミュニケーションを図り、世界それぞれの市場で戦略を実行していける集団になることです。私たちは、世界の仲間とともに、グローバル化が加速する時代に立ち向かい、多様化する社会のニーズに的確に対応し、プラスグループがさらなる成長を果たしていくため、新たな企業理念『新しい価値で、新しい満足を。』を制定しました。

### 新しい価値とは

私たちプラスグループは、社会と共に生きる企業です。お客様の求めるものが常に変化する現代にあっては、

普遍的な価値を大切にしながらも、新たな価値を見出していく必要があります。私たちの手で新たな市場を創り出すチャレンジ精神。世の中になかった価値に気づき、他人とは異なる視点を持ち、どんな些細な身の回りのものにも目を向けることのできる鋭い感性。そして日々、発明・発見を継続させていく力。この3つの力で、新しい価値を創造していきます。

### 新しい満足とは

私たちがお客様にご提供するもの。それは、単に商品やサービスだけでなく、お客様に満足をもたらすことです。商品やサービスを通じて、今まで経験したことのない満ち足りた気持ちになっていただく。お客様の満足は、私たちの満足でもあり、社会の満足にも通じるのです。『新しい価値で、新しい満足を。』これを私たちの最大の喜びとして、社会に貢献していくことがプラスグループの使命なのです。

## プラスグループにおけるCSRとは、企業理念を具現化すること

持続可能な社会の実現に向けて、企業理念を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することが、お客様、社会、そして地球環境など、私たちを取り巻くすべてのステークホルダーに対する責務であり、プラスグループのCSRであると考えています。プラスグループでは、2014年度、グループ各社のこれまでのCSRの取組みを活かしたグループ横断のCSR推進

体制を構築し、CSRに取り組んでいます。

企業理念「新しい価値で、新しい満足を。」のもと、社会的課題の解決に真摯に取り組み、さまざまなステークホルダーの期待や要望に応え、社会から信頼され、尊敬され、愛される企業をめざし、プラスグループ一体となってCSR活動を推進してまいります。

プラス株式会社  
代表取締役社長

今泉 公二





## プラスグループのあゆみ

プラス株式会社の歩みは1948年、東京で事務用品卸を営んでいた今泉商店と鈴木商店が合併して設立した千代田文具株式会社に始まります。1959年に「プラス株式会社」へ商号変更。この社名には、二つの商店が一緒になった＝“+”されたということに由来するとともに、世の中にプラスになる会社にしていきたいという思いが込められています。当時「〇〇事務機」や「△△文具卸」といった、取扱商品や業種名を付けた会社名が多い中で、それらを使わない会社名にしたことは、将来の業容発展を考慮したものでありました。また、時は日本経済が右肩上がりの高度成長期。文具業界にも追い風が吹きます。第一次産業から第二次産業へ大勢の人が流れた上、第三次産業が急成長。文具・事務用品やオフィス用品がなければ仕事にならない人や業種が急増しました。

そんな時代背景のもと、プラス株式会社は本格的なメーカー化を計ります。こうして、文具・事務用品卸→ブランド・メーカー→自社工場を持つ本格的メーカーへと着実に転進。その後はメーカーとして商品開発に意欲的に取り組むだけでなく、業界の商習慣や文具・オフィス家具といった取扱商品の範囲にこだわらない独自の流通サービスを発明するなど、市場創造に鋭意取り組んでまいりました。

刻々と変化する経済環境に対し最適な経営体制を常に追求しながら、プラス株式会社はメーカー、流通の各事業に取り組むとともに、国内外グループ各社のマネジメント会社として、お客様満足の最大化を目指しています。

### 1948年

千代田文具株式会社を設立

### 1959年

プラス株式会社に商号変更

### 1960年

製造部門としてプラススチール(株)を設立、徐々に製造卸に変革

### 1984年

- ・市場に先駆け、電子黒板「ボードファックス」を開発・発売(1984年 日経優秀製品・サービス賞 優秀賞を受賞)
- ・パーソナル文具セット「チームデミ」を発売  
累計約650万個発売のメガヒットとなる(1985年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞ほか、多々受賞)

### 1991年

オフィス家具工場を核にし産業複合施設「プラスランド」竣工  
製造卸から自社工場を持つ本格的メーカーに

### 1995年

- ・ベトナム・ドンナイ省にプラスベトナム工業を設立
- ・所沢ファイル工場を設立

### 1997年

- ・アスクル事業を分社 アスクル(株)を設立
- ・大企業向けのオフィス用品調達に関するソリューションビジネス「ビズネット事業」を開始
- ・文教市場向けカタログ通販「スクレックス事業」を開始

### 2000年

- ・ビズネット事業を分社 ビズネット(株)を設立
- ・中国広東省に汕頭普樂士儀器有限公司を設立  
電子黒板等を製造・販売

### 2001年

- ・プラスの主力営業部門と有力卸が一緒になって、  
ジョインテックス(株)を設立(のちにプラス(株)と合併)
- ・プラスランド内に工房を備えた木製家具工場  
「アトリエファクトリー」を竣工

### 2006年

- ・東京都千代田区永田町にショールーム「+PLUS」をオープン
- ・本社を東京都文京区から港区虎ノ門に移転

### 2007年

- ・オランダ・ヘルダーランド州に文具・事務用品の欧州物流拠点を開設
- ・個人情報保護スタンプ「ケシボン」を発売  
文字で文字を隠す新発想が支持され、初年度120万個発売の  
ヒットとなる(2008年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞を受賞)

### 2010年

- ・プラスベトナム工業がドンナイ省に第二工場「ヌンチャク工場」を竣工
- ・ドイツ・デュッセルドルフ市に文具・事務用品の欧州販売子会社を設立

### 2014年

- ・プラスベトナム工業「ヌンチャク工場」増床。ハサミの生産を開始



# プラスグループのご案内

## プラス ネットワーク

プラス株式会社およびグループ各社は大きく「メーカー部門」「流通部門」、「物流・サービス部門」に分けることができます。

各々の企業は、あるときはネットワーク企業として、あるときは良きライバル企業として互いに影響しあいながら、

"お客様の満足"を"独創的な方法"で実現していくために、社会の変遷やお客様の要望によりさまざまにその姿を変えていくという柔軟な発想で、独自のビジネスを展開しています。

グループ統括

# PLUS

— メーカー —    — 流通・サービス —    — 物流サポート —

**PLUS** プラス株式会社内のカンパニー・事業 ■売上：885億円 (2014年12月期)  
カンパニー

<p>プラス株式会社 ステーションナリーカンパニー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文具事務用品の開発・製造・販売</li> <li>コピーボード等の開発・販売</li> </ul>	<p>プラス株式会社 ファニチャーカンパニー</p> <p>オフィス家具の 開発・製造・販売・内装施工</p> <p><b>Garage</b> ガラージ事業 ・PFC東京オフィス</p>	<p><b>JOINTEX</b> プラス株式会社 ジョイントテックスカンパニー</p> <p>オフィス用品の 経費削減ソリューションを ヒューマンサポート+ITで実現</p> <p><b>smartoffice</b> <b>smartschool</b></p>
--	--	---

- PLUS VIETNAM INDUSTRIAL Co.,Ltd.
- 普美士文具(上海)有限公司
- 汕頭普美士機器有限公司
- TAIWAN PLUS Corporation
- PLUS Corporation of America
- PLUS Europe GmbH

**Biznet**  
SOLUTIONS  
ビズネット株式会社

間接材の調達から物流まで一括サポート

■売上：124億円  
■議決権所有比率100%  
(2014年12月期)

プラス ロジスティクス株式会社

総合物流・内装工事  
機密文書リサイクル

■売上：173億円  
■議決権所有比率100%  
(2014年12月期)

- ・プラス カーゴサービス株式会社
- ・NSK 株式会社
- ・東京商事株式会社

## +PLUS (ショールーム)

「+PLUS (プラス・プラス)」は、仕事を楽しくスマートにするモノやコトの発信拠点です。オフィス家具や文具、ミーティングツールの展示とともに、各種セミナーやイベント

を開催。最新の PLUS スタイルを通して、お客様とのコミュニケーションを深めています。



**+PLUS PLUS STYLE SHOWCASE**  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町 2-13-5  
赤坂エイトワンビル 1F  
TEL : 03-5860-2350  
営業時間：平日 10:00 ~ 17:00  
(祝日・年末年始・夏季休業日除く)



## 自然と地域との共生のために ～産業複合施設「プラスランド」～

群馬県前橋市の郊外、赤城山の南側。ありのままの地形や自然の景観を損なうことなく、多くの樹木や神沢川(かんざわがわ)のせせらぎに溶け込むように「プラスランド」は位置しています。

### 産業複合施設「プラスランド」とは

1991年4月、群馬県前橋市に竣工した「プラスランド」は、森林、緑地、水辺に囲まれた約14万坪の自然環境の中に、オフィス家具工場を核に、木製家具工場、物流センターやオフィス、研修施設などを配した、自然と人間がバランスよく共生する産業複合施設です。

当初桑畑であった敷地に総計58種類、3万本を超える植樹を進め、約25年が経過した現在では10m以上に成長したものも多く、まさに「プラスランドの森」として恵まれた自然環境を形成しています。また、敷地周辺には塀やフェンスを設けず、周辺の豊富な自然に溶け込むよう配慮し、緑地の一部を地域住民の憩いの場として開放しています。



### プラスランド概要

所在地：群馬県前橋市神沢の森1  
敷地面積：463,595m<sup>2</sup> / 約14万坪

#### プラスランド内施設

- ① 物流センター：3,000坪
- ② センターファクトリー：5,800坪 金属製家具の生産
- ③ サービスファクトリー：2,800坪 チェアの組立
- ④ 工場事務棟：600坪 オフィス・カフェテリア
- ⑤ アトリエファクトリー：3,800坪 木製家具、パネル、ホワイトボードの生産
- ⑥ 音羽倶楽部：1,400坪 レストラン・宿泊・研修
- ⑦ ヘリポート



## 「プラスランド」の敷地内を流れる一級河川「神沢川」



「プラスランド」の敷地内には、一級河川である神沢川がほぼ南北に流れています。群馬県には428本の一級河川があり、利根川水系の河川のひとつである

神沢川は、北は宮城村、大胡町を経て「プラスランド」に入り、前橋市と伊勢崎市の境界を抜け荒砥川と合流する、総延長約16kmの一級河川です。「プラスランド」周辺では川は大きく蛇行しており、流域は樹木がうっそうと生い茂る、前橋市内としては稀な自然環境を残しています。

このような自然豊かな環境を残すために、「プラスランド」内を流れる神沢川の護岸工事は「多自然型護岸工法※」と呼ばれる環境に配慮した工法により、行われています。当初、群馬県の土地改良事業の一環としてコンクリート護岸工事が

予定されていましたが、「神沢川の自然を出来る限り、そのまま残したい！」という当社の熱い想いから、自然に配慮した護岸工事が進められることになりました。

1999年1月～4月にかけて、神沢川でもっとも湾曲した部分に、プラスランドの敷地内から出た石を利用した工事が進められ、2001年4月からは、灌木材を利用した新工法で、さまざまな生物の生育・生息環境に配慮した工事を行いました。2002年以降は、川の浸食箇所を中心に治水上の安全を確保するとともに、自然にやさしい護岸づくりが継続されています。

※ 多自然型護岸工法  
自然の川が持つダイナミズムを考慮に入れながら、水害の無い安全な川づくりと合わせて、生物に優しい、しかも美しい景観を持つ川の姿を作り上げる工法



## 「神沢川」の自然を守るために

「プラスランド」の敷地内を流れる神沢川（一級河川）周辺の素晴らしい環境を守るため、1993年より、『神沢川クリーン計画』として、前橋工場スタッフを中心に毎年、神沢川の清掃活動を行っています。2014年は21回目の開催となり、20年以上継続して行っている取り組みです。（東日本大震災発生後の2011年は中止）

例年は、当社役員をはじめ、「プラスランド」で働く社員約200名と、前橋市役所ならびに近隣自治会の方々にご参加・ご協力をいただき実施しています。『神沢川クリーン計画』では、清掃区域を10に分け、川の両岸と浅瀬を中心に散在する空き缶・ビニール・発泡スチロールなどのゴミを分別収集、所定の集積場所への運搬し、ゴミを回収しています。2007年、こうした地域一体型の環境活動が評価され、プラ

ス前橋工場は、工場緑化として最高の荣誉である「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」※を受賞しました。



※「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」  
1983年（昭和58年）に設置された「緑化推進連絡会議」により、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人、団体に対し、内閣総理大臣の表彰を行うものです。

## 音羽の森

研修施設である音羽倶楽部は3万坪の敷地の小高い丘の上に立っています。敷地内には、3万坪の敷地内に約50種の樹木が植えられており、もともとこの地に根を張っていた巨大な桑の木や、音羽倶楽部の建設に合わせて植林した樹木が大きく育ち、前橋市内とは思えないような美しい音羽の森を形づくっています。

音羽倶楽部のフロントでは、木々を見ながら自由に散策いただけるよう、音羽倶楽部に植えられている樹木の配置図「音羽倶楽部の樹木マップ」と、音羽倶楽部にある樹木の写真が掲載された図鑑「音羽倶楽部樹木図鑑」を無料で貸し出ししています。



プラスグループでは、「プラスランド」のコンセプトである“自然との共生”と、地域社会への貢献を推進するとともに、残された自然や多様な生物をその生息環境とともに出来る限り保全するため、これからも自然共生社会の実現に向けて、積極的に取り組んでいきます。



## ベトナムにおける長年のご支援に 感謝をこめて～ベトナム学生を対象に奨学金制度創設～

プラスは、2013年より、文具事務用品の基幹製造拠点を置くベトナムの大学生、小学生を対象とした奨学金制度を設置し、2つのプログラムをスタートしました。

### ベトナム学生を対象とした奨学金制度を創設

1995年、プラスは業界に先駆けてベトナムに進出し、全額出資のベトナム現地法人・プラスベトナム工業（PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD.；以下PVI社）を設立しました。以来PVI社は、文具事務用品の製造拠点として、1996年のビエンホア工場（ドンナイ省）を皮切りに、2010年、2012年に次々と新工場を稼働し、現在では3工場2,500名を超える現地社員と共に、成長するステーションナリー事業を製造面で支えてきました。このように順調にベトナムでの事業展開を進めることができたのは、ひとえに地元関係各位より寄せられたご理解、ご協力の賜物と考えています。

折しも本制度を創設した2013年は、「日越友好40周年」の節目の年でした。ベトナムにおける長年のご支援に対する感謝をこめて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの願いから、奨学金制度を創設しました。本奨学金制度は、留学生の受け入れに熱心に取り組まれている青山学院大学との提携により、青山学院大学のベトナム

人留学生を支援する『PLUS・AGU※ ベトナムスカラーシップ』と、PVI社を窓口としてベトナム国内の小学生を支援する『PLUS Vietnam Scholarship』の2つのプログラムを設けています。

※AGUは、Aoyama Gakuin Universityの頭文字



## 『PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ』奨学金授与式

2013年度および2014年度は、各年度において奨学生2名を決定後、当社虎ノ門オフィスにて、奨学金授与式を行い、ハノイ国家大学外国語大学からの留学生に対し、奨学金証書を授与しました。



2013年度授与式：2013年10月25日実施

2014年度授与式：2014年10月17日実施

### 青山学院大学のベトナム人留学生支援 『PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ』

対象人数	2013年度 2名（留学期間：後期半年間） 2014年度 2名（留学期間：1年間）
対象者	青山学院大学のベトナム人留学生 ※青山学院大学との学生交換協定締結校「ハノイ国家大学外国語大学」および「ホーチミン市人文社会科学大学」からの留学生
支給金額	2013年度 1,500,000円 （1名あたり750,000円支給） 2014年度 3,000,000円 （1名あたり1,500,000円支給）
支給開始	2013年9月、2014年9月

## 『PLUS Vietnam Scholarship』奨学金授与式

2013年度および2014年度は、各年度において奨学生100名を決定後、現地にて、奨学金授与式を行い、ドンナイ省の1年生～5年生までの小学生に対し、奨学金証書と当社製品の修正テープやファイル等をセットにした文房具ギフトセットを贈呈しました。

2013年度授与式：2013年9月12日（ヴィンキュウ県）、  
9月14日（ヌンチャク県）実施

2014年度授与式：2013年9月19日（ディンクアン県）、  
9月26日（タンフー県）実施

『PLUS Vietnam Scholarship』は、PVIスタッフによって運営されています。ドンナイ省には、一つの市（ビエンホア）と一つの町（ロンキャン）と9県があります。毎年、ドンナイ省から2県を選定、教育推進協会から該当県の全小学校へ奨学金制度について通知、PVIの選定基準に基づき、対象小学生が選定されます。PVIスタッフによる申請書類の審査、現地調査（申請者の家族状況確認など）を経て、奨学生を決定し、教育推進協会と協力の上、奨学金授与式を開催しています。また、『PLUS Vietnam Scholarship』は、現地新聞やテレビでも取り上げられました。



これからもプラスは、未来を担うベトナムの若い優秀な人財の輩出に少しでもお役に立てるよう、引き続き、取組んでいきます。



### ベトナム国内の小学生支援 『PLUS Vietnam Scholarship』

対象人数	2013年度 100名 2014年度 100名
対象者	ドンナイ省の小学生 ※毎年、ドンナイ省の2県を選定選定された県の全小学校へ教育推進協会を通じ、奨学金制度について通知 PVI 社で制定した本制度運用ルールに基づき、授与対象小学生を選定し、教育推進協会と協力の上、奨学金授与式を開催
支給内容	2013年度 100万ドン/名（日本円換算：約5,000円） プラス文房具ギフトセット（修正テープ、ファイル等） 2014年度 100万ドン/名（日本円換算：約5,000円） プラス文房具ギフトセット（修正テープ、ファイル等）
支給開始	2013年度 2013年9月 2014年度 2014年9月



## 東日本大震災への復興支援

プラスグループは、震災発生から4年が経過した現在も、事業活動を通じて復興のお役に立てるよう、被災地のニーズを踏まえながら、継続的に支援活動に取り組んでいます。

### 陸前高田市の教育環境支援「陸前高田市 ×PLUS= 一本松プロジェクト」

プラスジョインテックスカンパニーは、岩手県陸前高田市と協議し、同市の教育環境整備を支援する「一本松プロジェクト」を2014年4月1日から立ち上げることで合意、プロジェクトをスタートしました。

「一本松プロジェクト」は、ジョインテックスカンパニー内で教育・福祉・什器関連事業に取り組む教育DLM事業部が中心となり、教育事業で販売している教材の対象商品「ブックトラック※1」売上の1%と、ジョインテックスが運営する文教市場向けカタログ通販「スマートスクール※2」のWEBポイント交換メニュー分（1口3,000円〜）を、震災被害の大きい同市に寄付し、教育施設や教育用品の整備に役立てていただくことを目的としています。

2014年4月1日から9月30日分の寄付金として、岩手県陸前高田市の教育事業に57,304円寄付しました。

#### 〔内訳〕

- ・教材事業 48,304円  
指定商品「オリジナルブックトラック※1」売上の1%
- ・スマートスクール事業 9,000円  
スマートスクール※2web交換メニューとして 3件×3,000円

#### 陸前高田市 ×PLUS 「一本松プロジェクト」

陸前高田市と協議し、同市の復興支援を象徴する“一本松”をプロジェクトのネーミングに採用しました。「奇跡の一本松保存プロジェクト」とは異なる、オリジナルプロジェクトです。



※1 ブックトラックとは  
図書、辞書等を収納し、自由に移動をさせることができる備品です。

※2 スマートスクールとは  
1997年にスタートした小中学校・幼稚園・保育園向けのカタログ通販に専任営業サポートが付いたデリバリーサービスです。全国の教材販売店や文具事務用品店等と協働することによって、お客様が使用する教材、行事用品、文具・事務用品、生活雑貨等を、FAXまたはインターネットでのご注文の翌日に直接お届けしています（一部翌々日以降のお届け）。同サービスは、17年前より学校専用として初めてスタートし、現在95%以上の小中学校でご登録いただいています。



## みちのく復興支援室の取組み

プラスジョインテックスカンパニーでは、2011年6月より、被災地域の一刻も早い復興に向けた支援を目的として、東北社内に「みちのく復興支援室」を発足させました。東北沿岸部の復興支援を専門に取組む部門として、現地の販売店様支援やボランティア活動に参加しながら、引き続き、お客様の防災用品の購入や防災も考慮したオフィスづくりのお手伝いをしています。

### みちのく復興支援室が取組んできたこと

#### ・お米やお餅セットのお届け

2011年、岩手県・福島県・宮城県の販売店様300店へ、無洗米2kgを7袋ずつお届けしました。また、年末年始用の「力餅」として、岩手県・福島県・宮城県のスマートオフィス・スマートスクールユーザーである保育園・小学校・市民センター等へ、もち米30kg×85袋と餅つき機12台をセットにし、寄贈させていただきました。



#### ・セミナー等の開催

被災地からのご依頼に応じて、講師として防災の基本や防災用品の使い方の実演などをご紹介します。2012年7月・11月には、宮城県東松島市総合防災訓練 大溜・東大溜自主防災会よりご依頼いただき、「わが家の防災対策の確認」と題して、住民の皆様へ講演を行いました。また、2013年5月には一般社団法人コミュニケーション教育協会の復興支援ラジオ番組へ出演させていただきました。



#### ・「こころざし教育」への協力

「こころざし教育」の活動に賛同し、文具や運営資金の寄付、講師として授業に参加しました。(詳細は下記「プラスグループが復興支援のために取組んできたこと」をご参照ください)

### プラスグループが復興支援のために取組んできたこと

プラスグループは2011年3月の東日本大震災発生以降、復興支援としてさまざまな取組みを行っています。

#### 義援活動

プラスグループは、2011年、被災者の救済および被災地の復興にお役にいただくため、日本赤十字社を通じて義援金5,000万円※を寄付させていただき、宮城県・福島県の小中学校をはじめとした被災地へ、ノート・はさみ等の自社製品の提供、救援物資の緊急車輦派遣等を行いました。

※プラス株式会社及び主要グループ会社による義援金寄付額の合計

#### 「プロジェクトおりがみ」の実施



ジョインテックスカンパニーは、東日本大震災から一週間後、福島県相馬市にある幼稚園の園長先生からいただいた一本のお電話をきっかけにスマートオフィス、スマートスクール※1をご利用

いただいている岩手・福島・宮城・茨城県の幼稚園・保育園・小学校・中学校へ、ささやかな支援としておりがみをお届けしました。※2

※1 スマートオフィス、スマートスクール

「スマートオフィス」は、カタログ通販に専任営業サポートが付いたデリバリーサービスです。文教市場向けとして「スマートスクール」があります。いずれも、プラス株式会社ジョインテックスカンパニーが提携する文具事務用品店を通じて全国展開しています。

※2 2011年は全2,683校、2012年～2013年は全2,172校にお届けしました。

#### 「こころざし教育」のサポート

ジョインテックスカンパニーは、宮城県亶理郡山元町で震災からの復興と地域課題解決に取組むNPO法人GRA(ジールーエー)※1と協同で、山元町の山元町立山下中学校・坂元中学校の1・2年生を対象に、キャリア教育「こころざし教育」※2の支援活動を行っています。

スタート時から授業で使用する文房具や教材を提供、2012年7月からは運営資金の一部を寄付、さらに社員を講師として派遣し、山下中学校を皮切りに2013年3月まで、将来の夢や



目標を考える力を育む「PLUS×GRA こころざし教育」を順次開講しました。2015年1月、「こころざし教育」の一層の充実を目指し、山下中学校の1年生77名を対象に「物流の仕事」について学ぶ遠隔授業を開催。新たな学びのスタイルの試みとして、教室とジョインテックス東北物流センター(宮城県岩沼市)をWEB会議サービスでつなぎ、映像による施設紹介やリアルタイムの質疑応答などを実施しました。

※1 特定非営利活動法人 GRA (ジールーエー)

2011年、グロービス経営大学院メンバーを中心に任意団体として結成、2012年、NPO法人格を取得、「10年100社、10,000人の雇用を創出する」というビジョンを掲げ、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県亶理郡山元町にて、農業・教育・交流の3分野で、震災からの復興だけではなく、震災以前から存在していた人口流出や少子高齢化などの地域課題解決に挑む。

※2 「こころざし教育」

2010年3月から宮城県が小中等学校の教育振興基本計画の一つに掲げる「志教育」を踏まえて、2012年2月よりGRAが教育委員会、学校と連携し公式の授業として展開しているキャリア教育プログラム。



# CSR マネジメント

プラスグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、プラスグループの企業理念を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することがプラスグループのCSRであると考えています。



## 企業理念とCSRの考え方

プラスグループにおけるCSRとは、企業理念「新しい価値で、新しい満足を。」を具現化することです。

### プラスグループ 企業理念とCSRの考え方

プラスグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、プラスグループの企業理念を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することがプラスグループのCSRであると考えています。

社会的課題の解決に真摯に取り組み、さまざまなステークホルダーの期待や要望に応え、社会から信頼され、尊敬され、愛される企業を目指し、プラスグループ一体となってCSR活動を推進しています。

#### 私たちの理念

Our Philosophy

**新しい価値で、新しい満足を。**

#### 私たちのビジョン

Our Vision

**プラスグループは世界中の人々に  
快適で楽しくスマートな  
仕事空間と生活文化を実現する  
商品・サービスを提供し  
社会の発展に寄与します。**

#### 私たちの価値観

Our Values

**ユニークネスの追求**

- ・お客様重視
- ・生活者視点
- ・自由と個の尊重
- ・デザインへのこだわり
- ・挑戦と改革

#### 私たちの行動指針

Our Action

- ・今までにない、他者とは違う、他のやり方でチャレンジする。
- ・お客様のために、あらゆる努力を惜しまない。
- ・社会、家庭の中で暮らす一人として自覚し仕事に取り組む。
- ・仲間を大切にしながら、自由な発想で取り組み、個性を発揮する。
- ・常に、美しいもの、心地よいものを追求し提供し続ける。
- ・情熱を持って挑戦し、仕組みや社会を変えてゆく。



## CSR推進体制

2014年4月、CSRの取組みを活かしたグループ横断のCSR推進体制を構築しました。

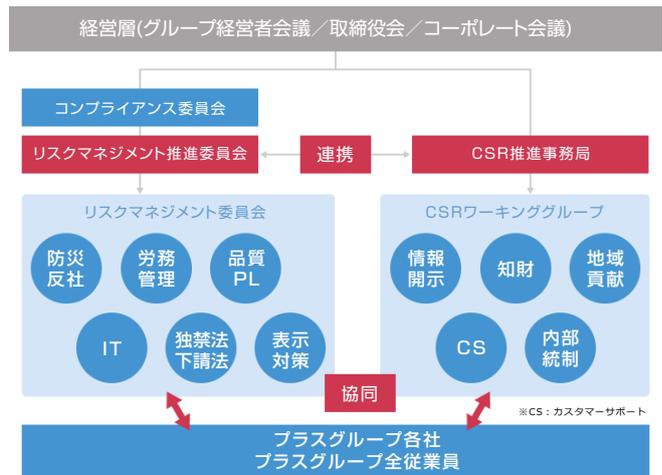
### プラスグループ CSR 推進体制

プラスグループでは、2014年度、グループ各社のこれまでのCSRの取組みを活かしたグループ横断のCSR推進体制を構築しました。

グループ経営者会議・取締役会・コーポレート会議のもと、CSRを統括する組織としてプラス株式会社にCSR推進事務局を設置しました。CSR活動は、リスクマネジメント委員会とCSR推進事務局が連携し、グループ一体となり推進しています。リスクマネジメント委員会では、6分科会が従来の活動をCSRの観点からブラッシュアップし、CSR推進事務局のもと5つのCSRワーキンググループを新設、併せて11のグループがそれぞれCSR課題に取り組んでいます。

海外拠点においては、現地社員に対し、テレビ会議システムを用いて、コンプライアンス委員会とCSR推進事務局協同で、コンプライアンスやCSRに関するセミナーを実施し、プラスグループがCSRに取り組む意義や今後の取組み課題に

ついて情報交換や共有をすることで、グループへのCSRの浸透を図っています。



## コーポレート・ガバナンス体制

経営の健全性、透明性、コンプライアンスを重視した経営を行い、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて努めています。

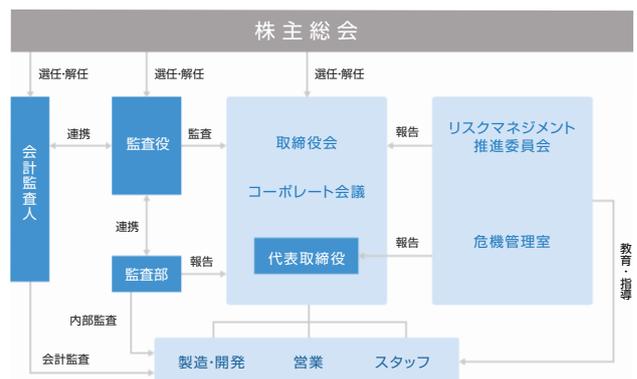
### コーポレート・ガバナンスの考え方

プラス株式会社では、経営の健全性、透明性、コンプライアンスを重視した経営を行い、経営環境の変化に柔軟に対応で

きる経営体制の確立を重視するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて努めています。

### コーポレート・ガバナンス体制

プラス株式会社の取締役会は、取締役7名で構成され、経営の重要事項の審議や、事業の概況報告等を行っています。また、取締役会の委任を受けた事項、その他業務上の重要な事項に関し協議する機関としてコーポレート会議を設置し、意思決定の迅速化を図るとともに、適宜、経営課題について活発な議論を行っています。また、監査役(2名)は、取締役会、適宜コーポレート会議に出席するほか、代表取締役・取締役及び子会社社長と定期的意見交換を行い、また会計監査人及び監査部から監査に関する重要事項の報告を受け、定例的に実地監査を行っています。



## 内部統制システム

プラス株式会社は、取締役会及び監査役のほか、監査部（3名）を設置し、監査役と監査部との連携において事業経営監査や

内部監査を幅広く実施するとともに、内部統制の実効性が確保できる体制の強化に努めています。

## コンプライアンス・リスクマネジメント

事業を取り巻くさまざまなコンプライアンスとリスク上の問題に対し、的確な管理と危機発生時の適切な対応等に取り組んでいます。

### コンプライアンス委員会/リスクマネジメント委員会

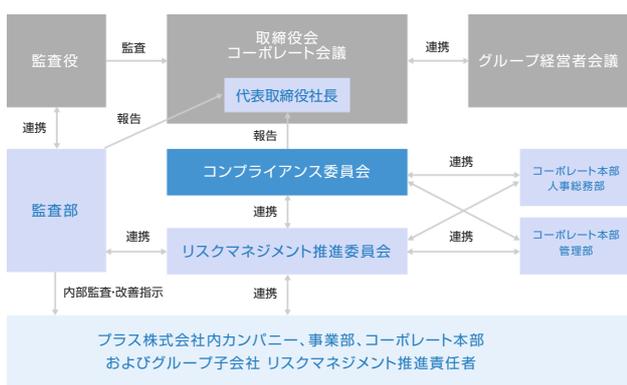
プラスグループでは、法律・諸規則等の遵守と高い倫理観をもって行動するための基本的事項として「コンプライアンスポリシー」を定め、社内イントラネットに掲載し、プラス株式会社取締役会、代表取締役社長、コンプライアンス委員会、リスクマネジメント委員会、監査部等の各組織協同で、コンプライアンスに取り組んでいます。

また、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、的確な管理・実践を可能にすることを目的とした「リスクマネジメント基本規程」を定め、代表取締役直轄の7分科会からなるリスクマネジメント推進委員会ならびに危機管理室を設置し、

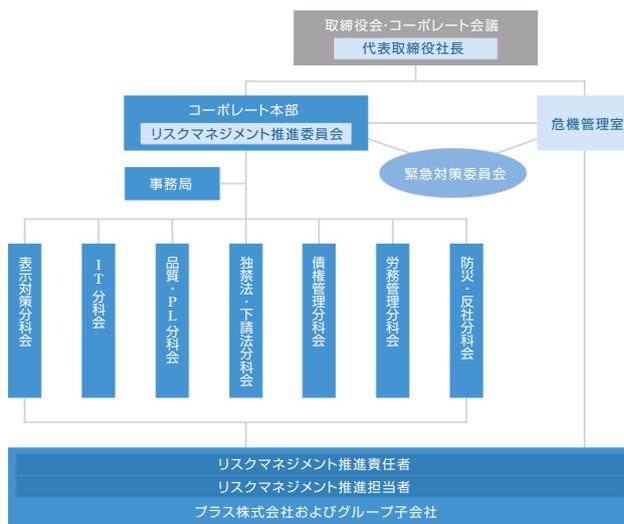
(1) 法令違反リスク (2) 製品・サービスリスク (3) 与信リスク (4) 情報リスク (5) 雇用・人事リスク (6) 社内不正・犯罪リスク (7) 災害・事故リスク (8) 環境リスク (9) その他を対象リスクとして捉えています。

コンプライアンス委員会およびリスクマネジメント委員会では、日常的な事業活動におけるコンプライアンス意識の向上・法令遵守を維持するための研修や、年一回、リスク予防・対応・再発防止等を目的とした全従業員対象のe-ラーニングによる教育を実施しています。

コンプライアンス体制



リスクマネジメント体制



## プラスグループ コンプライアンスポリシー

プラスグループでは、コンプライアンスを徹底するための手引書として、2006年6月、グループで働くすべての人びとが、法律・諸規則等の遵守と高い倫理観をもって行動するた

めの基本的事項を具体化した「プラスグループ コンプライアンスポリシー」を制定しました。

### コンプライアンスの定義

プラスグループにおける「コンプライアンス」とは、法律・諸規則を遵守し、社会常識や消費者感覚に反することのない、誠実かつ公正な企業活動を実践することを言います。

### 遵守すべき基本的事項

プラスグループで働くすべての人びとが、倫理的に正しく行動するための遵守基準となるべき事項です。記載してある項目のみを遵守すれば良いということではなく、本ポリシーの

趣旨に沿って、ここに掲げる項目以外のケースにも対応できるよう、グループ内へ周知徹底を図っています。

#### 1. 社会的責任

- ・ 良き企業市民として社会貢献に努めます。
- ・ 環境への取組を自主的、積極的に行います。
- ・ 積極的な社会との対話と公正な情報開示で、会社の信頼性・透明性を高めます。

#### 2. 人権の尊重

- ・ 人格・個性を大切に、人権尊重の精神に溢れた企業風土を築きます。

#### 3. 法律やルールへの遵守

- ・ 法律や規則を遵守するだけでなく、社会常識や消費者感覚に反する行動はとりません。
- ・ 不透明な商慣習や虚礼等を止め、公正・透明・自由な競争を行います。
- ・ 国際ルールや世界各国の法律を遵守すると共に、現地の習慣・文化を尊重し、発展に貢献します。

#### 4. 独占禁止法・下請法の遵守

- ・ 営業活動および購入先との取引において、独占禁止法を遵守し、公平かつ公正な取引を行います。

#### 5. PL法・知的財産権

- ・ 業務遂行上、特に関わりの深い「製品の安全性」、及び「知的財産権」については、コンプライアンスの重要性を認識します。

#### 6. 適正な情報管理

- ・ 個人情報や顧客情報等の適正な管理に努めます。

#### 7. 反社会的勢力との対決

- ・ 市民社会に脅威を与える反社会的勢力とは、断固として対決します。

#### 8. 社政治・行政

- ・ 政治・行政及び地域社会との健全かつ正常な関係を保ちます。



# 環境のためにできること

プラスグループが目指す「環境最適」とは、原材料の調達から、製造、営業、配送、回収に至るすべての活動領域において重複行為をなくし、ビジネスを合理的かつシンプルに再構築することです。



## 環境管理

「プラスグループ環境理念・環境方針」のもと、事業活動による環境影響を把握するとともに、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

### プラスグループ 環境理念・環境方針

#### プラス株式会社

##### 環境理念

プラス株式会社は、社内外すべての領域において、顧客満足を実現するため、多段階重複行為の排除による「社会最適システム」構築を経営理念として掲げ、社会最適が、21世紀

の求める循環型経済社会の持続的発展、即ち「環境最適システム」であると考え、総力をあげてこのシステムの発見・創造に努めます。

##### ■ 商品開発

我々は、顧客満足を実現するため、一製造者として消費者に対し、環境対応に優れ、かつ利便性をも兼ねた「新たな価値を創造するユニークな商品」開発に努めます。

##### ■ 流通開発

我々は、顧客満足を実現するため、一私企業の枠を超越した社会的視点に立って、「流通社会における機能分担による効率化」を経営の根幹に据え、創造的破壊の精神をもって在来ビジネス構造の再構築に努めます。

##### 環境方針

「環境理念」に基づき、以下の方針に従い行動いたします。

- ・ 事業活動・商品・サービスにおいて、地球環境への影響に配慮し、汚染の予防に努めます。
- ・ 新たな価値を創造するユニークな環境対応商品・サービスの企画開発
- ・ 事業活動の全領域において、環境保全活動を推進
- ・ 重複行為の排除による環境負荷の低減
- ・ 関連する環境法規制及び、各部門が同意する要求事項を順守します。
- ・ 環境目的・目標を定め、計画を運用し、見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ・ 事業活動における省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・リサイクルに努めます。



## ISO14001 認証

2000年2月、プラス株式会社はISO14001認証を取得しましたが分社化に伴い、各カンパニーがそれぞれの事業の特性・独自性を環境保全活動にも生かせるよう、カンパニーごとに環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001個別認証を進めていました。

2009年からの事業統合により、各カンパニーが培ってきた環境に関する情報や知恵、多様な技術を融合・共有することで、プラス全体の環境保全活動の底上げを図り、新たな環境配慮製品・サービスを生み出すことで企業価値の向上を目指していこうと、環境マネジメントシステムを統合し、2010年9月、ISO14001認証の統合審査を受審、認証を更新しました。

現在プラスグループでは、プラス株式会社、ビズネット株式会社、一夢堂株式会社が認証を取得しています。

登録事業者	プラス株式会社
初回登録年月日	2000年2月29日
登録番号	NQE-0008A
登録範囲	オフィス家具・商業施設用家具・文具・事務用品・PC用品・教育関連機器・ミーティング機器・電子黒板等の商品企画・設計・開発・製造/生産管理・購買・販売・配送管理、メンテナンス及びサービスパーツの供給；室内装備品の販売；内装工事の設計・開発及び施工管理 虎ノ門本社、三番町オフィス、ファニチャーカンパニー東京オフィス、池袋オフィス、前橋工場、所沢工場、稲城オフィス
審査登録機関	日本海事検定キューエイ株式会社

## 社内環境教育の実施

プラスグループでは、環境に関する基礎知識の習得や環境問題への理解を深めることを目的に、年1回、e-ラーニングや集合形式の環境教育を行っています。全従業員を対象にしたe-ラーニングによる「ECOセミナー」や集合形式で行う新入社員研修では、環境に関する社会動向、商品・サービスや事業活動を通じたプラスグループ環境活動などをテーマとした教育を実施しています。



登録事業者	ビズネット株式会社
初回登録年月日	2002年6月28日
登録番号	NQE-0100A
登録範囲	文具・事務用品・オフィス生活用品の調達・商品管理(倉庫業含む)・販売・配送管理 ビズネット本社、東京センター、西日本営業部、大阪物流センター
審査登録機関	日本海事検定キューエイ株式会社





## 地球温暖化対策

低炭素社会の実現のため、オフィス・工場等の省エネルギー活動の推進をはじめとした地球温暖化に対する取組みを行っています。

### 太陽光発電システム売電事業

オフィス家具の生産拠点である前橋工場（群馬県前橋市）で太陽光発電システムを採用し、「プラス前橋工場発電所」を開設。2013年11月より発電した電力は東京電力へ全量売電しています。太陽光発電パネルの発電出力は500kW。前橋工場センターファクトリーの屋根に設置し、年間発電量は一般家庭およそ160世帯分にあたる約554,000kwh※1、CO2削減量は年間約174tとなります。

当事業は2012年7月から開始された「再生エネルギー固定価格買取制度※2」を活用するもので、プラスグループの環境方針を具現化する「CO2を減らす」取り組みの一つです。前橋工場は1991年の設立当初から「自然と人との共生」をコンセプトに、緑化の推進はもとより毎年地元住民とともに敷地内を流れる神沢川の清掃活動を行うなど、地域の環境美化にも積極的に取り組み、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」（2007年）など数々の賞を受賞しています。

またプラスの企業理念である「社会最適」=「環境最適」システムの構築を目指して、環境に配慮した取り組みを近年強化しており、2011年7月に高効率照明を採用、2013年8月に粉体

塗装ラインを設置するなど、環境対応型ファクトリー実現に向けての試みを継続しています。

こうした取り組み全体による2013年のCO2排出削減量は年間365t以上となりました。

※1 計算根拠は電気事業連合会出典：3,600kWh/年/世帯を参照

※2 経済産業省のもとで2012年7月に開始され、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度。電気事業者への電力供給開始から20年間の固定買取価格：42円/kWh（含消費税）



### 大型集塵機の排熱利用

プラスランド内（群馬県前橋市 ※1）にある、アトリエファクトリー※2では、工場内の大型集塵機からの排熱を有効利用しています。

加工の段階で排出される大量の木屑を工場内のダクトで集塵機に集め、「空気」と「木屑」に分別、この「空気」を浄化し、工場内の空調（暖房）に循環利用しています。

※1 プラスランド

1990年3月より、群馬県前橋市の郊外、赤城山の南側に建設した、自然環境の中にオフィス家具工場、木製家具工場、物

流センターやオフィス、研修施設などを配した、産業複合施設です。

※2 アトリエファクトリー  
お客様の“想い”を形に。短納期を実現したファクトリー。

木製品の異型、大型化に対応したファクトリーでは、ユーザーニーズを具現化するための「工房」を備え試作品の研究やカスタマイズ品の生産を行っています。



### トップライト方式の採用

アトリエファクトリーでは、省エネルギー化の一環として、工場天井の要所に大きな採光窓を設置（トップライト方式）しています。トップライト方式は、屋根面の開口部を設けることで、通常の壁面の設置された窓と比較し、約3倍の採光が期待で

きます。特に工場のような奥行きが深い建物では、壁面の開口部の明かりは中央部まで届かないため、さらに効果的です。



## 断熱屋根の採用

アトリエファクトリーの屋根には、空調設備の省エネルギー推進のため、断熱材を敷き詰めています。断熱材を利用することによって、外からの暑さ・寒さの影響を受けにくくなり、暖・

冷房機器に使用する電気、ガス、石油などのエネルギー消費の抑制につながっています。



## 蛍光灯の交換

プラスランド内にある、センターファクトリー※1の事務所の蛍光灯安定器 40 灯を、試験的に既存の 2 灯型蛍光灯から反射板付きの 1 灯型省エネタイプに変更しました。

消費電力は 1 灯あたり 85w から 47w に削減され、CO<sub>2</sub> 排出量が年間 1.713tCO<sub>2</sub> 削減されます。さらに、2011 年度より ESCO 事業※2を導入し、順次、デスク・チェア



工場、管理棟、倉庫棟などに設置していた蛍光灯・水銀灯 2,624 台を撤去、新たに高効率照明ランプ、反射板付き 1 灯型省エネタイプ 2,232 台に変更しました。これにより、年間消費電力は 624,551kwh から 303,800.6kwh となり、320,750.4kwh 削減、CO<sub>2</sub> 排出量は年間 123tCO<sub>2</sub> 削減されます。また、事務棟のカフェテリア、および玄関ホールの照明器具を白熱灯から蛍光灯タイプへ 199 個切り替え、1 灯あたりの寿命が 600 時間から 6,000 時

間となっただけでなく、消費電力が 100w から 12w に削減され、CO<sub>2</sub> 排出量が年間 4,766kgCO<sub>2</sub> 削減することができました。

※1 センターファクトリー  
オフィス家具生産の中心を担うファクトリー。スチール家具を中心とした量産に加え、変種・変量にも柔軟に対応する「短納期受注生産」ファクトリーです。



※2 ESCO 事業

ESCO 事業 (Energy Service Company の略) とは、民間の企業活動として省エネルギーの提案、施設の提供、維持・管理など包括的なサービスを行う事業のこと。省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、顧客の利益と地球環境の保全に貢献するビジネスで、省エネルギー効果の保証等により顧客の省エネルギー効果 (メリット) の一部を報酬として受取る。

## カーボンフットプリント検証制度認定

2013 年 8 月に商品・サービスごとのカーボンフットプリント (以下、CFP)※1の算定・宣言に関するルールとなる「CFP 製品種別基準 (CFP-PCR : Carbon footprint of a Product-Product Category Rule) が変更となったことを機に、新 CFP-PCR に基づき、当社が製品のライフサイクル (原材料調達から生産、流通、使用、廃棄・リサイクル) においてどれくらい CO<sub>2</sub> (二酸化炭素) を排出しているのか、「背幅伸縮ファイル セノパス」および「片面無移行デスクマット W 型」の 2 製品で算定しました。



2014 年 1 月、算定結果について、カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム事務局である一般社団法人産業環境管理協会により検証を受け、上記 2 製品は『CFP 宣言認定製品』と認定されました。

算定結果は、「背幅伸縮ファイル セノパス」は、1 冊あたり 1.3kg、「片面無移行デスクマット W 型」は 1 枚当たり 12kg の CO<sub>2</sub> を排出しているという結果でした。今回の算定結果を今後の製品開発やサービス提供に役立てるとともに、低炭素社会の実現に向けて二酸化炭素排出量削減に取り組んで参ります。

※1 カーボンフットプリント (CFP)  
CFP (カーボンフットプリント)

とは、Carbon Footprint of Products の略称で、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を CO<sub>2</sub> 換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組みです。LCA (ライフサイクルアセスメント) 手法を活用し、環境負荷を定量的に算定します。



## 省資源・リサイクル対策

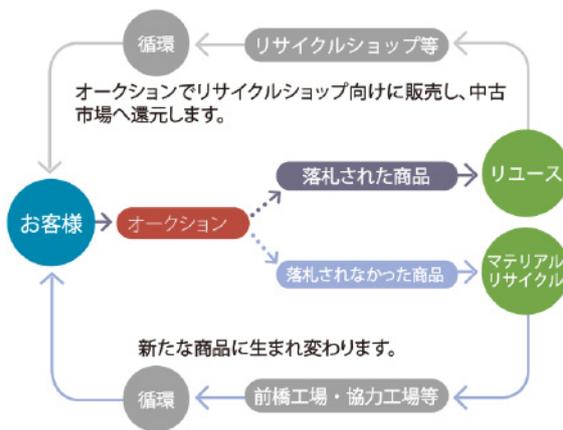
循環型社会の実現に貢献するため、プラスグループがご提供する商品・サービスを通じて 3R を積極的に推進しています。

### MRS (マテリアル・リバーズ・システム)

中古オフィス家具の循環型トータル・リサイクル・システム「MRS (マテリアル・リバーズ・システム)」では、お客様のお引越し、什器の買い替え等に伴って発生する、デスク・チェア・キャビネットなどの古いオフィス家具をお預かりし、リユース可能な商品は、週一回のペースで開催するオークションでリサイクルショップ向けに販売し、不要家具の効率的な市場への還元を図ります。



また、オークションで落札されなかった場合や損傷が激しくリユースできない商品は、業務提携先に委託し、マテリアルリサイクルを中心とした適正処理を行っています。



### 機密文書リサイクルサービス

個人情報保護法の施行などを受けて、情報の厳格管理や漏えい防止策が求められる中、お客様のオフィスで発生する各種機密文書を適切に処理したうえで、100%リサイクルを実現する「機密文書リサイクルサービス」をご提供しています。「機密抹消処理専用工場」から「再生工場」に運搬された機密文書は、溶解処理を施し、再生商品にリサイクルします。機密文書から紙繊維を取り出し紙製品にするほか、不純物はサーマルリサイクルを行い、電力・セメント原料・製鉄原料などに生まれ変わり、リサイクル率 100%を実現しています。



#### 【機密文書のリサイクルシステム】



### カフェテラスの生ごみ処理機

プラスランド内のカフェテリア (食堂) では、2001 年 7 月より、生ごみ処理機を導入し、生ごみのリサイクルに取り組んでいます。カフェテリアから出た生ごみを生ごみ処理機へ投入し、肥料へと加工、できた肥料は近隣の農家で有効



に活用されています。そして新たに出来た作物から、また私達への食事が作られています。調理段階で出た生ごみや食べ残しなど、年間 950kg 前後の生ごみがリサイクルされています。



## 大型集塵機の木屑利用

プラスランド内にあるアトリエファクトリー※1では、加工の段階で排出される大量の木屑を工場内のダクトで集塵機に集め、「空気」と「木屑」に分別、この「空気」を浄化し、工場内の空調（暖房）に循環利用しています。

さらに、発生した「木屑」は、酪農家において再利用されます。木屑の再利用方法としては、集塵機にて木屑を直径10cm程度に固めた後、県内の酪農家に引渡し、牛舎内に敷く藁の代わりとして利用します。牛舎で利用した後は、木屑と牛の排泄物が混ざり、堆肥の原料として牧草栽培に利用されます。さらにそこで栽培された牧草を牛が食べることで、



自然のリサイクルが実現しています。

※1 アトリエファクトリー

お客様の“想い”を形に。短納期を実現したファクトリー。木製品の異型、大型化に対応したファクトリーでは、ユーザーニーズを具現化するための「工房」を備え試作品の研究やカスタマイズ品の生産を行っています。



## ベトナム原材料の再資源化・省資源化

プラスベトナム工業（PLUS Vietnam Industrial Co., Ltd. / ベトナム社会主義共和国ドンナイ省）は、プラス株式会社ステーションナリー製品の主要製造拠点です。1996年にベトナムのビエンホア工業団地に第一工場を建設、ホッチキス等の文具・事務用品の生産を開始しました。

2009年にヌンチャク工業団地に第二工場を竣工し、2010年5月より、本格稼働しています。ヌンチャク工場では、ビエンホア工場からホッチキス針、ゼムクリップの製造ラインを移設し、金属製品を中心に順次生産し、品目・ラインを拡充する計画です。



また、クリアホルダーの材料であるポリプロピレンシートのロール交換時に発生する無駄なプラスチック樹脂の削減に取組みました。ロールの全長600mから800mに変更することで、ロール交換の回数は1日10回削減され、無駄なプラスチック

樹脂の発生量も1日9kg減量することに成功しました。ビエンホア工場では、製品成形時に発生するプラスチック樹脂の端材をロボットアームで粉砕機に投入し、再度、原材料として使用しています。以前はこの粉砕機がプラスチック樹脂で溢れて機械に詰まり、除去作業が必要となり、機械も故障してしまうことがありました。しかし、現在はプラスチック樹脂が溢れる前にアラームが知らせ、事前に処理ができるようになったため、資源の最大限の有効利用が可能となりました。



## PLA-PLUS プロジェクトへの参加

プラスは、環境省が推進するプラスチック製品の店頭回収によるリサイクルの実証事業「PLA-PLUS(プラプラ)プロジェクト」に、回収参加 42 企業・団体のうち唯一の文具メーカーとして、前回※1 に引き続き参画し、ショールーム「+PLUS (プラス・プラス)」※2(東京都千代田区永田町)で、2015年2月16日(月)～2015年3月20日(金)まで、使わなくなった文具・おもちゃなどのプラスチック製品をお客様から回収しました。

「PLA-PLUS プロジェクト」は、環境省の「製品プラスチック等の効率的な回収システムの構築及び再資源化ビジネス支援」(事務局 日本環境設計株式会社)に基づき、消費者・販売店・メーカーが一体となって取り組む、プラスチック製品リサイクルの仕組みを構築する試みです。

現在、生活用品などの多くのプラスチック製品は「容器包装リサイクル法」の対象外となっているため、多くの自治体で分別収集されないまま、焼却・埋立処分されています。しかし将来に向けて、より高度な循環型社会を形成するには、それらのプ

ラスチック製品についても可能な限りリサイクルを進めていく必要があります。プラスは、修正テープやファイル等プラスチックを原材料に使う文具を数多く手掛けるメーカーの立場からこの理念に賛同、当事業への参画を決定い

たしました。今回の活動への参加を通じ、プラスチック製品リサイクルに関するお客様のニーズや、循環型社会における文具製品開発の在り方等について一層の理解・検討を深め、今後につなげて参りたいと考えています。

※1 第3回：2013年11月15日～2014年3月15日「+PLUS」店頭にて回収。

※2「+PLUS」は、プラスブランドのオフィス家具、文具、ミーティングツールの最新情報を発信するショールームです。



## 環境配慮商品

お客様と接する機会が一番多い商品の環境対応化を積極的に進めています。

### 環境配慮商品の企画開発

#### 【環境配慮商品紹介】

##### ■XF (エクセフ) シリーズ

「XF (エクセフ)」は、オフィスの模様替えや移転時に天板や表面材の追加・交換により、空間の表情を変化させ、オフィスの用途や人員の変化によりパーツの追加や交換をするこ



とで空間の機能を進化させることができます。長期に渡ってビジネスを支えるロングライフ設計(長寿命設計)となっており、省資源や廃棄物削減に貢献します。変形天板にバリエーション

をもつ「XF デスク」の場合、単一素材を積極的に採用し、パーツ同士のジョイントもシンプルにすることで、分別しやすい設計となっています。



■ 間伐材ファイル「間伐材 背幅伸縮フラット セノバス」「間伐材 フラットファイル」「間伐材 個別フォルダー」

環境に配慮した紙製ファイル「間伐材 背幅伸縮フラット セノバス」「間伐材 フラットファイル」「間伐材 個別フォルダー」は、国産の間伐材パルプを原紙に使用（20%）して



います。割安な輸入木材の攻勢に加えて、人手不足などから国内の林業産出額は減少の一途にあり、特に未利用のままの間伐材※1は、年間約2,000万立方メートル発生し、放置されています。※2紙製ファイルの原紙に間伐材パルプを使用し、間伐材の利用を促進することで、国内林業を守り、日本の森林を健全に維持することに貢献しています。本製品は、「間伐材マーク認定※3」「エコマーク認定※4」「グリーン購入法適合商品※5」です。

※1 間伐材

樹木及び土壌の健全化のため、密集化した木を間引く過程で発生する木材のこと

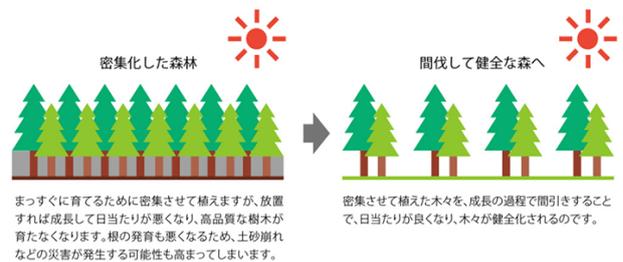
※2 まっすぐに育てるために密集させて植えますが、放置すれば成長して日当たりが悪くなり、高品質な樹木が育たなくなります。

根の発育も悪くなるため、土砂崩れなどの災害が発生する可能性も高まってしまいます。

密集させて植えた木々を、成長の過程で間引きすることで、日当たりが良くなり、木々が健全化されます。

※3 間伐材マーク

間伐や間伐材利用の重要性等をPRし、間伐材製品の利用・促進を図ることを目的とし、林野庁推進のもとに制定されたマークです。



**1 日本の森林を守る**

土壌の健全化のためにも、間伐は必要不可欠です。つまり、間伐材の利用は、日本の森林を守ることに繋がります。



**2 CO<sub>2</sub>削減につながる**

放置された間伐材は、腐敗していく過程でCO<sub>2</sub>を排出してしまいます。木材や紙として使用すれば、CO<sub>2</sub>をその中にとめることができ、その製品を使用することで、CO<sub>2</sub>削減に貢献できます。



※4 エコマーク

エコマークとは、様々な商品（製品およびサービス）の中で、「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと、公益財団法人日本環境協会エコマーク事務局より認められた商品につけられる、環境ラベルのことです。



※5 グリーン購入法適合商品

平成13年4月1日から施行された「国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の第6条に定められた、特定調達品目及び判断基準を満たす商品です。

■ コピーボード（電子黒板）「N21 シリーズ」

コピーボードは、ボードマーカーで書き込んだ内容をシートをスクロールさせながら光学システムで読み取り、印刷やデータ保存ができる会議ツールとして広く活用されています。ネットワーク機能を標準搭載し、オフィス内の複合機や共有プリンタから印刷



可能な「N-21」シリーズは、従来機に比べ、省資源・省エネに貢献しています。設計の大幅な見直しにより、本体の厚さを約4割、重さを約2割削減しました。※1

※1 従来機種 M-12SI : 41kg →

N-21S : 33.5kg

(プリンタ除く)



さらに光源には低消費電力で定評あるRGB3色のLEDを採用することで、蛍光灯を使用した従来機に比べ、動作時/待機時の消費電力が40W/5Wから12W/3Wとなり、年間消費電力を大幅に抑えることができました。※2



※2 測定条件：1日1時間3回の

会議を開催。1回あたり2面分の

コピーをする。機種はSサイズとした場合



## 自然との共生

自然共生社会の実現に向けて、残された自然や多様な生物をその生態環境とともに保全することを考え、取り組んでいます。

### 産業複合施設「プラスランド」

1990年(平成2年)3月より、群馬県前橋市の郊外、赤城山の南側に建設を開始したプラスランドは、森林、緑地、水辺に囲まれた約46万㎡の自然環境の中に、オフィス家具工場を核に、木製家具工場、物流センターやオフィス、研修施設などを配した、自然と人間がバランスよく共生する産業複合施設です。

当初桑畑であった敷地に総計58種類、3万本を超える植樹を進め、約25年経過した現在では10m以上に成長したのも多く、まさに「プラスランドの森」として恵まれた自



然環境を形成しています。

また、敷地周辺には塀やフェンスを設けず、周辺の豊富な自然に溶け込むよう配慮し、約17.5haの緑地は管理を徹底、開放スペースを設け、地域住民の憩いの場として提供しています。プラスランドでは、今後も自然との共生と地域社会への貢献を推進していきます。



### 神沢川クリーン計画

「プラスランド」敷地内を流れる神沢川(一級河川)周辺の素晴らしい環境を守るため、『神沢川クリーン計画』として、毎年、前橋工場スタッフを中心に清掃活動を実施しています。例年は当社役員をはじめ、「プラスランド」で働く社員約200名と、前橋市役所ならびに近隣自治会の方々にご参加・ご協力をいただき実施しています。

毎年、清掃区域を10に分け、川の両岸と浅瀬を中心に散在する空き缶・ビニール・発泡スチロールなどのゴミを分別収集、所定の集積場所への運搬し、ゴミを回収しています。「プラスランド」のコンセプトである“自然との共生”と地域社会への貢献を推進するとともに、清掃作業を通じて社員が地域の一員

として豊かな自然と触れ合えるよう、今後も『神沢川クリーン計画』を継続していきます。



### 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

2007年(平成19年)、プラス株式会社前橋工場は、工場緑化として最高の栄誉である「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰は、1983年(昭和58年)に設置された「緑化推進連絡会議」により、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人、団体に対し、内閣総理大臣の表彰を行うものです。





## 法規制の遵守と汚染予防

環境関連法規および当社が同意したその他の要求事項を遵守し、必要に応じて自主基準を設け、環境汚染の予防に努めています。

### 工場排水緊急時模擬訓練

プラスファニチャーカンパニー前橋工場では、定期的に監視・測定を行うとともに、年一回、敷地内を流れる神沢川（一級河川）への基準外工場排水の流出を想定した緊急時模擬訓練を実施しています。

緊急事態発生時の対応方法について教育し、緊急事態発生時に迅速かつ適切な処理を行えるように訓練しています。



凝集沈殿工程原水ポンプ停止操作確認



調整池の水位確認



調整池のポンプ停止操作確認

### PCB の保管管理と適正な処理

プラスでは、コンデンサー 9 台、蛍光灯の安定器 49 個の PCB（ポリ塩化ビフェニル）使用電気機器を保有、施錠された専用の収納庫に保管し、厳重に管理しておりましたが、2015 年 3 月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、適正な処理を行いました。



# お客様のためにできること

プラスグループは、お客様にとって安全で安心できる製品・サービスを提供するために、お客様の声に真摯に耳を傾け、貴重なご意見やご要望ひとつひとつに誠意をもって対応し、常にお客様視点での製品・サービスの提供と改善に努めています。



## 品質管理

プラスグループは、お客様にとって安全で安心できる商品・サービスを提供するために、各カンパニーの品質管理部および品質保証部を中心に関連部署が連携し、品質向上への取組みを強化しています。

### プラスグループ 品質憲章・品質方針

#### 品質憲章

私たちプラスグループは、安全、安心な製品・サービスをお客様にお届けします。

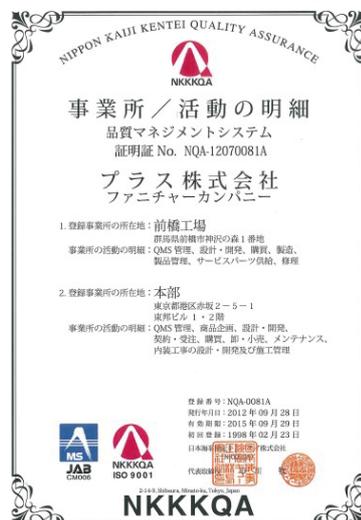
#### 品質方針

1. 安全で安心な製品・サービスを提供するために、技術の向上に努め、環境保護と品質保証の体制を整備します。
2. 法令を順守し、国際標準の品質管理システムを基本に、定期的な運用検査を自信して、管理精度の向上に努めます。
3. 製品・サービスは、安全な作業環境の下で手順に則り、品質安定に必要なプロセスの管理を励行します。
4. 資材、部材、製品等の調達、仕入れ、輸入、相手先と協力して品質と安全性を確認し、公正な契約に基づいた取引を行います。
5. 製品・サービスの品質に不都合が生じた場合は、法令に従って報告・開示し、適切な事後措置と原因究明を行い、再発を防止します。
6. 品質に起因する報告、クレーム、意見を尊重し、情報の収集を通じてお客様との信頼関係の強化を図ります。

### ISO9001 認証

1998年、品質保証体制の強化と顧客満足への更なる向上を目指し、プラスファニチャーカンパニー前橋工場がISO9001認証を取得しました。現在では、プラスファニチャーカンパニーのほか、文具・事務機器の製造拠点であるベトナムのピエンホア工場・ヌンチャク工場、中国の上海工場・汕頭工場

がISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、品質向上に取り組んでいます。  
※ISO9001とは、国際標準化機構（ISO）にて1987年に制定された品質マネジメントシステム（QMS：Quality Management System）の国際規格です。



登録事業者	プラス株式会社ファニチャーカンパニー
初回登録年月日	1998年2月23日
登録番号	NQA-0081A
登録範囲	オフィス家具・商業施設用家具の商品企画、設計・開発・製造、サービスパーツの供給及びメンテナンス；室内装備品の卸・小売；内装工事の設計・開発及び施工管理
審査登録機関	日本海事検定キューエイ株式会社

## 製品安全・品質不具合に関する情報

プラスグループでは、製品・サービスの欠陥やその使用・利用にともなう重大事故が発生した場合、法に則って所管官庁に速やかに報告し、被害の重大性や発生頻度などに応じてお客様にできる限り早くお知らせするため、新聞社告、ホーム

ページなどによって直接お客様に事故情報を開示しています。また、当社製品に係る事故について、その情報をお客様等から積極的に収集するとともに、お客様等に対して適切な情報を提供しています。

## 前橋工場の品質管理

日本百名山のひとつ赤城山の、雄大な景観に恵まれた前橋市神沢の森。清冽な神沢川の流れる、約 14 万坪の敷地を誇る産業複合施設・プラスランド。ここにオフィス家具の生産拠点である前橋工場があります。この緑に囲まれた工場から、日本一の生産台数に迫るスチールデスクをはじめ、チェア、パーティション、収納用品、会議デスクなど、さまざまなオフィス家具が送り出されています。



クオリティを損なうことなく、細部にわたるコストダウンを実践。さらに、一丸となって取り組んでいるのが、従業員の技術力向上です。国や地方自治体公認の技術検定に合格した「匠社員」の優遇もその一環。カスタムオーダーに対応できるラインに、あらゆる加工を一台でできる二連木製天板加工複合機 BIMA を導入し、カスタマイズのレベルを大きく上げるなど、日々、品質と技術の向上に励んでいます。



この前橋工場には、23 年分のコスト削減のノウハウが蓄積されています。部材の共通化を図り、多くの製品に適用するなど、

## ベトナム工場の品質管理

プラス ベトナム工場 (PLUS Vietnam Industrial Co., Ltd. / ベトナム社会主義共和国ドンナイ省) は、プラス株式会社ステーションナリー製品の主要製造拠点です。1995 年に従業員わずか 25 名、ホッチキスの製造からスタートとなったベトナム工場は、現在、約 2,500 名の従業員を擁する一大生産拠点へと発展しました。第 2 工場も操業を開始し、約 1,500 超のアイテムを製造しています。生産効率と品質を高めながら、生産実績も年々上昇、2009 年には修正テープが工場における世界一の出荷数量を記録。そして、PP ホルダー、ケシポンなど、次なる世界 No.1 製品の生産を目指しています。一方、世界への物流の中心地でもあるベトナム工場は、グローバルシェアを伸ばす上で、プラスの販売戦略上の重要な役割も担っています。



資など経営における配慮です。



プラスは、拠点工場をアジアに構えている優位点を活かし、アジア市場、欧米市場への一層の拡大を見据えています。プラスベトナム工場では、創業開始から 17 年間、日本だけでなく世界に向けて、多くの文具・事務用品を製造してきました。その過程でベトナム工場には、不良品を出すことを恥じ、高品質の製品を生み出すことを誇りに思う「品質文化」が深く根付きました。その「品質文化」を支えているのが、従業員一人ひとりの高い技能と品質意識、そして、人材雇用や部材調達、設備投

工場全体に浸透したこのような高い「品質文化」が、国際品質基準を上回る製品を生み出し、お客様のご満足へとつながっています。ベトナム工場はプラスが次に見据える世界戦略の一翼を担う生産拠点として、さらなる発展をめざします。工場として重要なテーマである生産性の向上のために、ベトナム工場ではユニークな取り組みをしています。役職に関係なく従業員全員がアイデアを出し合う。必要であれば作業マニュアルも見直す。これまで手作業でしかできなかった工程の自動化に挑戦するなど、改善活動を進めています。



## …… お客様のためにできること

このような活動は、生産性はもちろん、品質や安全性の向上をもたらし、技術と経験の蓄積にもつながります。長きにわたる積み重ねが、工場が直面するあらゆる課題を解決するための知恵や力、そして財産になっていきます。ピエンホア工場の品質管理部門は、品質の改善や欠陥品の予防活動が主な仕事です。さらに、材料の受入と完成した製品の出荷時に検

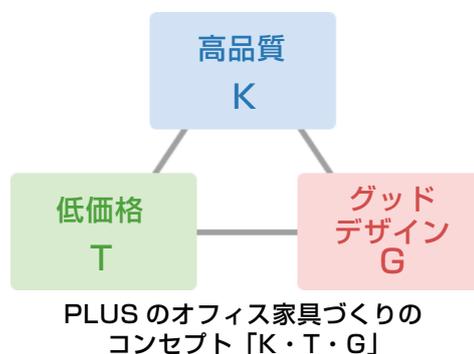


査を行っています。プラス ベトナムの品質における中枢部門です。お客様にご満足いただける製品をお届けしたいという思いが、安定した高品質を生んでいます。



## プラスのオフィス家具コンセプト「K・T・G」

プラスのオフィス家具づくりのコンセプトは、「KTG」（高品質・低価格・グッドデザイン）です。「KTG」（高品質・低価格・グッドデザイン）とは、求められる機能をお客様の心を満たす品質とデザインでカタチにし、“この品質・デザインでこの価格”という大きな満足をお届けすることです。製品設計やスペックを徹底的に見直し、その快適な使い心地にふさわしいデザインをカタチにする。プラスはオフィス家具の新たなスタンダード市場創造にチャレンジしています。



### 【KTG 製品のご紹介】

#### ■『フォールディングテーブル『Luarco (ルアルコ)』』

『Luarco (ルアルコ)』は、会議・セミナーなどに最適な平行スタッキング可能なフォールディングテーブルです。デザインは、曲線と直線の融合を追求した美しいフォルム、高いスタッキング効率、耐荷重性に優れた棚板を装備しながらも、業界同クラス製品中で最もお求めやすい価格帯を実現しています。



・耐荷重約3倍、高さ有効寸法1.25倍(当社比)の“天板運動棚”  
天板下の棚は独自の本体構造により、耐荷重が当社従来品比で約3倍の10kg、高さ有効寸法は1.25倍の84mmを実現。書類やファイル等はもちろんビジネスバッグもすっきり収納可能です。また棚の配置は幕板寄りになっているため下肢空間も広々、使い勝手が向上しています。折りたたみ時には天板と連動するので、スタッキングの邪魔になりません。



・スペース効率高まるスタッキング幅124mmを実現  
他社同等品の中で、収納時最も薄いスタッキングピッチ124mmを実現し、収納効率がアップしました。どこまでもストレートに並べられる平行スタッキングを採用しているため、省スペースかつ美しい収納が可能です。



・曲線デザインの配線孔  
ラウンドした配線孔はコードやケーブルの取り回しがしやすい開口サイズながら、一人当たりの机上スペースを十分に確保しています。また、ペンなどの小物が隙間に落ちにくい形状になっています。



・美しいフォルムとユーザビリティの高いデザイン  
大きなアーチを描いた脚や幕板、ラウンド型の配線孔、人が出入りしやすい天板角R形状などを取り入れ、曲線と直線との融合を追求した洗練されたデザインと高いユーザビリティを兼ね備え、オフィスの会議室や大学の講義室などさまざまな空間に最適な仕様です。



## 物流の品質管理

プラスの物流子会社であるプラス ロジスティクス株式会社は、「工場で作られた製品品質 100% + a でお客様にお届けすること」を使命とし、荷主様よりお預かりした製品の品質 100% に『+a』でお客様にお届けするための取組みを行っています。プラスグループとお客様をつなぐ最終ランナーであるプラス ロジスティクスは、“好感度 No.1” が製品品質 100%



の『+a』のひとつであると考え、ドライバーや施工者全員の“好感度 No.1” をモットーに、高品質のサービス提供をめざしています。



## 情報セキュリティ管理

「情報セキュリティ基本規程」に基づき、情報セキュリティ対策に取り組んでいます。

プラスグループは、お客様から大切な企業・個人情報をお預かりしています。大切な情報を厳重に管理していくため、「情報セキュリティ基本規程」を定め、社内に周知するとともに規程

に準拠した行動をするよう、年 1 回、e-ラーニング形式による教育を実施しています。

### ISO27001 認証

プラスならびに Biznet では、ISO27001 認証※を取得しています。ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）とも言われるこの認証を取得することは、今日の高度情報化社会の中で、情報セキュリティを高め、お客様情報をお預かりする企業として重要な取組みと考えています。今後も情報

セキュリティレベルの向上に努めていきます。

※ISO27001 とは、自治体、民間企業などの組織形態を問わない情報セキュリティ対策の管理の仕組みについて規定した規格であり、情報セキュリティ対策の国際標準です。

登録事業者	プラス株式会社
認証基準	ISO / IEC27001:2005 / JIS Q 27001:2006
認証登録番号	IS 91100
登録範囲	プラス及びプラスグループが利用する、サーバーールーム内、サーバーに関するクライアント PC と、管理、システム、これら各業務が扱う、データ及び情報三番町オフィス
登録日	2005 年 4 月 9 日
審査登録機関	BSI グループ ジャパン株式会社

登録事業者	Biznet 株式会社
認証基準	ISO / IEC27001:2005 / JIS Q 27001:2006
認証登録番号	IS 516742
登録範囲	文具事務用品・生活用品の調達支援サービスの企画・受注・請求・回収業務 Biznet 本社、株式会社 B t o B、東京センター
登録日	2007 年 6 月 1 日
審査登録機関	BSI グループ ジャパン株式会社

..... お客様のためにできること



## 個人情報保護

プライバシーマークを取得し、個人情報の保護に努めています。

### プライバシーマーク : JIS Q 15001

プラスならびにプラス ロジスティクスでは、個人情報の重要性を認識するとともに、適切な取扱いを行なうため、「個人情報保護方針」を定め、確実な履行に努めています。個人情報保護に関して一定の要件を満たした事業者に対し、財団法人日本情報処理開発協会 (JIPDEC) により使用を認められるプライバシーマーク※を取得し、年1回、個人情報保護に関するe-ランニングを実施し、個人情報の適切な取扱いを社員へ徹底してきます。

※プライバシーマーク制度は、日本工業規格「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合して、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定して、その旨を示すプライバシーマークを付与し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。

認定事業者名	プラス株式会社
初回認定年月日	2006年10月24日
登録番号	第10530023号
審査登録機関	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会

認定事業者名	プラス ロジスティクス株式会社
初回認定年月日	2005年9月20日
登録番号	第10410016号
審査登録機関	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会



## お客様とのコミュニケーション

お客様のお問い合わせ・ご提案・ご要望などに迅速、的確、丁寧な真心こめてお応えし、お客様の「お困り事」を解決するよう努めています。

### お客様お問合せ窓口

プラスグループでは、WEBまたはお電話による「お客様お問合せ窓口」を設置し、お客様からのさまざまなご相談、お問い合わせを承っています。お客様のお問い合わせ・ご提案・ご要望などに迅速、的確、丁寧な真心こめてお応えし、お客様の「お困り事」を解決するよう努めています。お客様からのご意見は、「お客様の声」として重要に受け止め、関連部門にフィードバックすることで、商品やサービスの向上につなげています。

## プラスショールーム「+PLUS (プラス・プラス)」

「+PLUS (プラス・プラス)」は、仕事を楽しくスマートにするモノ・コトの発信拠点です。オフィス家具や文具、ミーティングツールの展示とともに、各種セミナーやイベントを開催。最新のPLUSスタイルを通して、お客様とのコミュニケーションを深めています。

### +PLUS (プラス・プラス) でできること

#### 1. 見る、触れる、試す

+PLUSでは、プラスの文具、オフィス家具を中心に、新製品から定番品までプラスを代表する製品を展示しています。展示のコンセプトは「仕事を楽しくスマートに」。プラスならではの発想とデザインによる、使いやすくユニークな製品、仕事やオフィスを楽しく、スマートにしてくれる製品を展示し、見て、触って、体験していただける空間を目指しています。

#### 2. 識る、学ぶ、出会う

館内にあるセミナールームでは、「仕事を楽しくスマートに」をテーマにイベントやセミナーを随時開催。インテリアや設備など環境づくりにも配慮しています。

#### 3. 感じる、楽しむ

シンプルでモダンな内装デザイン、季節感のあるディスプレイやアートなど、お客様にご堪能いただける空間づくりにつとめています。





# 地域社会のためにできること

プラスグループは地域社会の一員として、当社製品の寄贈や東日本大震災への支援活動継続など、事業活動を通じて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。プラスグループが行っている社会貢献活動をご紹介します。



## 社会貢献活動

プラスグループは地域社会の一員として、文具寄贈や東日本大震災への支援活動継続など、事業活動を通じて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。プラスグループが行っている社会貢献活動をご紹介します。

### ベトナム学生対象の奨学金制度創設

ベトナムにおける長年のご支援に対する感謝をこめて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの願いから、奨学金制度を創設しました。

プラスは、1995年、業界に先駆けてベトナムに進出し、全額出資のベトナム現地法人・プラスベトナム工業（PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD.：以下PVI社）を設立しました。以来PVI社は、文具事務用品の製造拠点として、1996年のビエンホア工場（ドンナイ省）を皮切りに、2010

年、2012年に次々と新工場を稼働し、現在では3工場2,500名を超える現地社員と共に、成長するステーションリー事業を製造面で支えてきました。このように順調にベトナムでの事業展開を進めることができたのは、ひとえに地元関係各位より寄せられたご理解、ご協力の賜物と考えています。折しも本年は「日越友好40周年」の節目にも当たります。ベトナムにおける長年のご支援に対する感謝をこめて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの願いから、奨学金制度を創設しました。

### 赤坂コミュニティカレッジ

プラスは、2011年より、ビジネスパーソン向けの学びと交流の場「赤坂コミュニティカレッジ」を開講し、多彩なジャンルの講師陣をお招きし、知的好奇心を刺激するバラエティ豊かなテーマで毎月開催しています。「赤坂コミュニティカレッジ」は、プラスのショールーム「+PLUS（プラス・プラス）」のセミナールームを開放し、参加者の良質な相互交流が図れる場を提供することを目的として2011年10月にスタートしました。



食、美容、健康、芸術、古典芸能、自然科学など幅広いジャンルの第一人者を講師に招き、参加費無料の講座を月1～2回実施しています。おかげさまで毎回ご好評をいただき、2015年1月の講座は68回目を迎えることになりました。最近では、初参加の方が毎講座2～3割を占め、その方が新しいリピーターとなり、ご友人とお見えになるケースが多くなっています。またお客様の要望で2度目、3度目の登

壇をする講師が増えています。

2015年度上期は「新年だから日本酒を学び味わう！」（1/14）を皮切りに、「現代に活かす忍術」（3/11）、毎回好評の“宇宙”をテーマにした「見えないひかりでみる宇宙」（6/10）など計10講座を予定しています。開催時間は平日の18：30～20：30。Facebookページやメールマガジンを通じ、より多くの方々の参加を募っています。プラスは今後も、CSR活動（社会貢献活動）の一環として、お客さまからのご意見・ご要望を伺いながらセミナーテーマを広げ、より多くの参加者を募るとともに、本講座の運営を通しプラスブランドの認知向上を図っていきます。



## 東ティモールへの文具寄贈

プラス及びビズネットは、『CARE スマイルギフトキャンペーン』の活動趣旨に賛同し、東ティモールの子どもたちへ、文具を寄贈させていただきました。



『CARE スマイルギフトキャンペーン』とは、公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン (CARE



International Japan / 代表理事・理事長：五月女 英介氏)

が行っているキャンペーンのひとつで、東ティモールの子どもたちへ、新学年進級時、日本から登校用カバンと学用品のセットを贈り、子どもたちの学習意欲の向上と貧困世帯における負

担軽減を促すとともに、日本においても国際協力への参画や国際理解教育推進を図ることを目的に実施されています。

本キャンペーン初年度である 2012 年は、小学 5 年生と 6 年生、計 710 人の子どもたちに登校用カバンと学用品のセットを届けるため、プラス並びにビズネットから 710 人分のノート、定規、ペンケース、鉛筆削りを寄贈しました。



登校用カバンと学用品のセットは、CARE 東ティモールが実施する教育支援事業「Young Women's Education in a Young Nation」を通じて、2013 年 1 月下旬に一部の小学校へ贈られ、同年 6 月上旬には全ての子どもたちに届けられました。

### 【ケア・インターナショナル ジャパン】

ケア・インターナショナル ジャパンは、CARE のミッションである貧困の根源の解決に向け、途上国において災害時の人道支援を行うとともに、「女性や子ども」に焦点をあてた活動を通して、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。



1. 海外における緊急・復興・開発支援事業の計画・実施・モニタリング・評価
2. 国内におけるファンドレイジングと広報
3. アドボカシー（政策提言）およびキャンペーン（啓発活動）

ケア・インターナショナル ジャパンでは、海外において実施プロジェクトを実施する一方で、国内においては、報告会の実施、イベントへの参加、広報資料の配布などを通して、広く一般の方に対して、ケア・インターナショナルジャパンの活動について伝えています。

団体名	公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン (CARE International Japan)
代表者	五月女 英介 氏 (代表理事・理事長)
所在地	東京都豊島区目白 2-2-1 目白カルチャービル 5 階
URL	<a href="http://www.careintjp.org/">http://www.careintjp.org/</a>

### 【東ティモール】

東ティモールは、アジア（東南アジア）地域に位置する共和制国家です。約 1 万 4,900 平方キロメートル(首都 4 都県(東京、千葉、埼玉、神奈川の合計面積)とほぼ同じ大きさ)、約 118 万人の島国で、2012 年、独立 10 周年を迎えました。アジアで一番新しい国は、同時にアジアの最貧国とも言われ、厳しい経済状況あります。そんな東ティモールの希望であり財産ともいえるのが、人口の 46%を占める 15 歳以下の子どもたちで

す(日本は 13%)。この子どもたちが近い将来、東ティモールの国づくりの礎となるのです。

しかしながら、多くの子どもたちは「自分のモノ」を持っていません。特に学用品の不足は顕著で、十分な教育を受けられない子どもも多くいます。

(出典：外務省ホームページ、ケア・インターナショナル ジャパンホームページ)

## 中学生教育プログラム 職業体験学習

群馬県では、中学生の教育プログラムの中に「職業体験学習」というものがあり、本人が希望する職種への体験学習が盛り込まれています。学習先は県内製造業を初め、保育園や図書館、飲食店、コンビニなどです。プラスファニチャーカ



ンパニー前橋工場では、毎年 2 校ずつ、前橋市立内の中学校の生徒さんを受け入れています。どの生徒さんも慣れない作業に始めはとまどいながらも、一生懸命仕事に取り組んでくれていま





# お取引先様のためにできること

プラスグループとお取引先様との関係は、お互いに対等な立場であり、協働のパートナーです。お取引先様との相互理解を深め、信頼関係の構築に努めるとともに、より良いパートナーシップによる公平・公正な取引を徹底しています。



## 公正な競争・取引

プラスグループでは、公正な取引を実現するため、独占禁止法、下請法等の遵守・徹底に取り組んでいます。法律・諸規則等の遵守と高い倫理観をもって行動するための基本的事項として「コンプライアンスポリシー」を定め、さらにその内容を具体化、実践するために「独占禁止法遵守に関する行動指針」や「独占禁止法遵守マニュアル」を策定し、社内イントラネットに掲載、リスクマネジメント委員会の一部として、独禁法・下請法分科会を組織し、行動指針や遵守マニュアルの周知徹底を図っています。

また、公正な取引を実現するための社内教育として、「独占

禁止法遵守マニュアル」のほか、必要な時に誰もがすぐに確認出来るよう、社内質問事例集や公正取引委員会の質問コーナー等へのリンクを社内イントラネットに掲載しています。独占禁止法・下請法に限らず、製造物責任法や景品表示法等についても学習するため、プラスグループ全体を対象としたe-ラーニング「コンプライアンスセミナー」を継続的に実施し、各種法律に関する勉強会等を適宜開催しています。さらに、社内および外部に内部通報窓口を設定し、万が一法令に違反するような事態が生じた場合には、早期に発見、是正することができる体制を整えています。



## お取引先様とのコミュニケーション

お取引先様と、品質向上や環境保全等について共通の認識を持ち、協調して取り組んでいくことが必要であると考えています。

### お取引様との学びの場

プラスグループとお取引先様との関係は、お互いに対等な立場であり、協働のパートナーです。製品・サービスが生み出される事業プロセスにおいて、重要な役割を担っているお取引先様と、品質向上や環境保全について、共通の認識を持ち、協調して取り組んでいくことが必要であると考えています。

2011年より、家具仕入先様にお集まり頂き、製品安全の勉強会を開催しています。仕入先様とともに2011年は「製品安全を考える」と題し、最新の製品事故動向や主な事故事例・製品安全に関する法規制や制度・安全設計・リスクアセスメント等について学び、2012年は一般財団法人日本科学技術連盟が開発、現在は経済産業省においてリスク評価、リコール必要性の判断にも活用されている「R-Map」について学びました。2013年はPL事故発生後の対応について、当社法務担当が講師となり、勉強会を開催しました。



この勉強会はPLUSブランド製品の安全安心の構築・維持のため、今後も継続的に実施していきたいと考えています。また、プラスの物流子会社であるプラスロジスティクス株式会社は、社内外において、積極的に教育・研修を実施していま

す。特に社外教育では、パートナー企業である配送業者様に伺い、お客様と直接接するドライバーや施工者に対し、接客を始めとする教育を実施しています。

2012年8月下旬より、全国の施工会社様を対象とした組立技能大会も開催し、現在までに東北・首都圏・中部・関西・九州エリアにて実施し、パートナー企業様約30社にご参加いただきました。

本大会は、研修・筆記試験および実技試験(60分)を行い、実技試験では技能審査基準として、①お客様訪問時の身だしなみ・挨拶、②開梱、③組立、④クリーニング、⑤引渡し時の最終確認、⑥退室の6つをポイントに審査を行い、一番高評価であった企業様には優勝記念として、電動ドライバー等の施工用具を贈呈させていただきました。





# 働く仲間のためにできること

プラスグループでは、性別、年齢、国籍などを問わず、すべての人びとがいいきと働き、能力が最大限発揮できる職場の実現を目指し、さまざまな取組みを行っています。



## 人財交流制度・人財育成

一緒に働く仲間がいいきと働き、能力が最大限発揮できる職場の実現を目指し、人事制度や教育制度を充実させています。

### 人財交流制度 公募・FA 制度

プラスの「人財交流制度」には、「公募制度」と「FA 制度」との 2 つがあります。

「公募制度」は、新規事業や人員を要するカンパニーが募集広告を出し、社員が応募できる制度で、1995 年に導入しました。その後、2003 年に社員の能力開発・キャリアアップのためにも「自ら手を挙げる機会を作り出そう」との発想のもと、年に

一度立候補 (FA 宣言) する機会が与えられ、それを見たカンパニーがスカウトするという「FA 制度」が追加されました。どちらも、仕事内容や処遇の不満を解消する手段としてだけでなく、自分を成長させるチャンスを掴む方法としても活用されています。

### 人財の育成

プラスでは、新入社員研修から中堅社員研修、管理職研修まで、それぞれの階層や育成段階に応じた体系的な社員研修を継続的に実施しています。2014 年度新入社員研修では、4 月 1 日から約一か月間、グループの理念や歴史、諸制度。ビジネスモデルを理解し、ビジネスに必要なマナー、プレゼンテーション、コミュニケーション、IT などのスタンダードスキル習得のための研修を行いました。

また、管理職研修では、管理職の役割と使命を理解し、周囲を動かしていくための基本エンジン (特に考える力) を鍛え、部

下の目標を明確にし、具体的な行動へ導くポイントについて研修しました。

さらに 2013 年度より、中堅社員を対象とした研修「BooST 研修」を行っています。無限の可能性とユニークさを持つプラスの社員のさらなる飛躍をサポートし新たな価値を創造していくことを目的とした研修で、2014 年度はビジネスの基本エンジンを鍛えるプログラム 1. 聞く力 (リスニング) 2. 考える力 (ロジカルシンキング) 3. 話す力 (プレゼンテーション) について、研修を行いました。

### 研修施設 音羽倶楽部

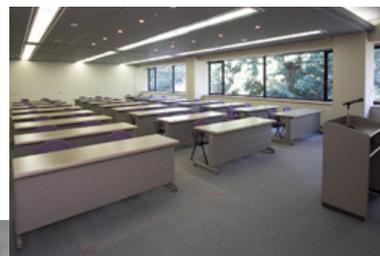
音羽倶楽部は、プラスランド内にある研修施設です。研修・セミナー等での利用はもちろんのこと、社員同士、または社員とお客様のコミュニケーションづくりのための場所として利用されています。



音羽倶楽部

研修ゾーンでは、スクール形式の 70 名での研修、2 分割して 30 名での研修が可能な大研修室、ディスカッションやグループワークに最適な小研修室、図書コーナー、OA コーナー、リフレッシュエリアを設けたリソースセンターなど、プラスが考える快適環境のためのソフトテクノロジーを反映した空間をつくりあげています。また、宿泊ゾーンは、心身ともにリラックスできるゲストルーム、く

つろぎ語り合えるラウンジやコモンスペースがあり、機能性とアメニティを体感することができます。



中研修室



宿泊室

## 社員教育プログラム「WANNA BE（ワナビー）」

2010年より、社員の学びの支援プログラム「WANNA BE（ワナビー）」を開始しています。

「WANNA BE」という名前には、当社のグローバルで存在感ある企業へと大きく成長していく、仕事を通じて社員が自己を成長させ、人生そのものを楽しむという二つの想いがこめられており、「こうありたい！（WANNA BE）」という社員

の願いを会社が学習面で支援するプログラムです。外部機関と提携し、会社の補助金のもと社員が低コストで講座を受講でき、特にグローバル化を推し進めていく中で、語学力の向上を希望する社員をサポートするため、英会話力、中国語会話力を磨く講座を提供。現在は実務スキルが学べる通信教育プログラムを追加し、講座の充実を図っています。

## ワーク・ライフ・バランス

より良いワーク・ライフ・バランス・プランの実現に向けて、育児や介護を支援する制度の充実を図っています。

### ワーク・ライフ・バランスの推進

プラスは、ゆとりのある生活の実現に向けて、いち早くフレックスタイム制度や裁量労働制に加え、「育児休職・休暇・短時間勤務制度」を導入し、今では介護に関する制度も追加され、育児・介護をしながら仕事できる、または安心して

育児・介護に専念できる環境を構築してきました。「プライベートが充実しているこそ、仕事で能力を100%発揮できる」プラスは、様々な場面で、より良いワーク・ライフ・バランス・プランの実現に努力していきます。

### 子育て支援

プラスグループでは、社員が仕事と家庭を両立して働き続けやすい環境づくりに取り組んでいます。特に子育て支援については、勤務時間面での配慮と経済的な支援を柱に支援策を拡

充し、その浸透に努めています。プラスでは、2011年、子育て支援の見直しが実施され、出産祝い金の増額、学費融資支援制度の新設、育児時短勤務の対象期間延長となりました。

### 波の会

「波の会」とは、プラスグループ全カンパニーの社員によって組織されている社員会です。本会は社員自らが運営するコミュニティラウンジとして、会員同士の親睦と相互扶助を図ることを目的とし、コミュニティサイト「naminokai」の運営や様々

なイベント活動を行なっています。スポーツや親睦活動などを目的として設立された「同好会」には、補助金を支給しており、現在、野球部、テニス、ランニングなど、19の会が活動しています。

## 安全と健康

一緒に働く仲間にとって、安全で健康な労働環境の形成に取り組んでいます。

### 安全と健康に関する推進体制

プラスグループでは、「安全衛生管理規程」を制定し、全ての従業員にとって安全で健康な労働環境の形成に取り組んでいます。プラスにおいては、安全衛生の方針、教育訓練、災害予防、健康管理、社員からの提案などを調査・審議するための「安全衛生委員会」を本社ならびに各カンパニーに設置し、定期的に開催しています。



## メンタルヘルスの取組み

プラスグループでは、従業員一人ひとりがいきいきと働ける職場の提供を目指し、メンタルヘルスの基礎知識の普及のため、マネジメント職を中心とした研修の実施など、一緒に働く仲間の心の健康管理に取り組んでいます。

プラスでは、社外にカウンセラーを配置しており、本人や職場から寄せられる様々な相談に適切に対応できる体制を構築しています。万が一休職に至った場合には、復帰・復職のための段階的な支援策の立案と実行につき、産業医をはじめとする専門家と職場・人事部門が連携し、本人および家族との連絡を密にするなど、きめ細かい対策を行っています。

また、年1回全社員に外部提携先より提供の「ストレスチェック」を受けてもらい、今の自分のメンタル状態を客観的な指標で確認できる機会を設けています。

社員がメンタル系も含めた病気やケガによって働けなくなった場合の、家族の経済的な負担は大きな問題と認識しています。特に、健康保険等の軽減措置期間が終了した後は、深刻な事態が想定されます。それをカバーするため、プラスでは「団体長期障害所得補償保険（GLTD）」に加入しています。今後も、できる限り福利厚生制度の充実を図る予定です。

## 防災への取組み

プラスグループでは、災害発生時に組織的かつ迅速に行動し、できる限りの減災に努めて生命の保全を図れるよう、各オフィスにおいて防災訓練を行っています。また、1次災害を最小限にとどめること、2次災害を阻止することを確実に実施するため、「プラスグループ防災指針」を定め、災害時、社員が取るべき具体的な行動について「プラスグループ防災マニュアル」を策定し、周知しています。

### 「プラスグループ防災指針」

1. プラスグループ共同でプラスグループで働く全員とその家族の生命・身体の安全確保に努めます。
2. 会社財産の保全および営業・生産活動の早期再開に努めます。
3. 自治体や地域社会と連携し、復旧に向けた社会的貢献に努めます。

さらに、地震等の災害時の社員やお客様、近隣の方々の人命救助ツールとして、各オフィスにチームレスキューを設置、虎ノ門本社・三番町オフィス、稲城オフィスにはAED（自動体外式除細動器）を設置し、社員一人ひとりには防災訓練・防災セットを配布して、万が一の事態に備えています。



防災 HP



防災マニュアル



防災訓練



## ハラスメントの防止

職場におけるセクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止を図り、快適に働くことができる職場環境の実現を目指しています。

### セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの防止

プラスでは、職場におけるセクシャルハラスメントおよびパワーハラスメントの防止を図り、個人として尊重され、相互に対等な関係で快適に働くことができる職場環境の実現を目的とした「セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント防止規程」を定めています。

社員一人ひとりに本規程の周知徹底を図るとともに、管理職を対象とした社内研修にて過去にグループ内において発生し

てしまった事例や外部講師によるセクハラ・パワハラ対策講習を行い、再発防止に努めています。

また、セクハラ・パワハラや違法行為など個人や会社の不正をできるだけ早く発見・是正し、より良い会社にしていくために「外部通報」（当社顧問弁護士へ通報）と「内部通報」（コンプライアンス委員会 事務局長へ通報）の2つの通報窓口を設けています。

